

◆インフォメーション



◆オンラインミュージアムショップリニューアルのお知らせ

もりおか歴史文化館のオンラインミュージアムショップが新しくなりました。オリジナルミュージアムグッズをはじめ、魅力的な商品をぜひご覧ください。

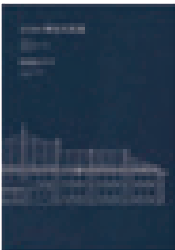


●刊行物 新版『もりおか歴史文化館常設展示ガイド』 A4判、80ページ 価格1,500円

常設展示ガイドが新しくなりました。

歴史文化ゾーン・観光交流ゾーンからなる当館の展示について紹介し、各展示室で使用している図などもほぼ網羅。開館から10年の間に新たに撮影した写真や盛岡藩主南部家の系図、学芸員によるコラムなども収録しています。

当館ミュージアムショップで販売、オンラインミュージアムショップでも取り扱っています。



◆展覧会情報(8月～12月)

企 画 展	「殿さまの1年 ―盛岡藩年中行事を紐解く―」	会期：8月1日(月)～10月17日(月)
企 画 展	「宝裕館コレクション寄贈40周年記念展 裕かなる宝」	会期：12月3日(土)～2月20日(月)
テーマ展	「ある藩士の日記 ―円子記の務め―」	会期：8月17日(水)～11月14日(月)
テーマ展	「干支コレクション ―ゆく寅・くる卯―」	会期：11月16日(水)～2月20日(月)
第4回もりおか歴史文化館自由研究コンクール作品展		会期：10月29日(土)～11月13日(日)

◆新型コロナウイルス感染拡大防止への取組について

もりおか歴史文化館では新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策(※マスクの着用、手指の消毒、体温測定など)を実施しております。ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。今後の状況によっては臨時休館、展示やイベントなどを中止する場合がございます。最新の情報は当館ホームページ、SNS等でお知らせいたします。

ご利用案内

〈開館時間〉4月～10月 9:00～19:00(2階歴史常設展示室への入場は18:30まで)
11月～3月 9:00～18:00(2階歴史常設展示室への入場は17:30まで)

〈休 館 日〉毎月第3火曜日(祝・休日の場合は翌日) 12月31日～1月1日

〈入 館 料〉入館は無料です。

2階展示室のみ有料となり、右記の入場料が必要となります。

	個人	団体(20人以上)
小・中 学 生	100 円	80 円
高 校 生	200 円	160 円
一 般	300 円	240 円

- 障がいをお持ちの方やその介護をなさる方(付添いを含めて2人まで)は、無料で入場できます。
- 盛岡市在住で65歳以上の方は、入場料が免除されますので、係員に証明書をご提示ください。
- 盛岡市内の学校に就学している小・中学生の方は、入場料が免除されます。
- 企画展をご覧になる場合は、別途入場料が必要となる場合があります。



もりおか歴史文化館

〒020-0023 盛岡市内丸1番50号
Tel:019-681-2100 Fax:019-652-5296
https://www.morireki.jp/

〈交通の案内〉 ●電車をご利用の場合 ○JR盛岡駅下車 徒歩20分
●バスをご利用の場合 ○岩手県交通・岩手県北バス
●車をご利用の場合 ○盛岡IC・盛岡南ICから車で25分
※当館の敷地内に一般車両の駐車スペースはございません。隣接する「盛岡城跡公園地下駐車場」(有料)など近隣の駐車場をご利用ください。

もりおか歴史文化館だより

Rekibunkan News Vol.

14
(2022.7.1 発行)

- ◆館長だより「ふたば」vol.10
- ◆2021年度事業報告
- ◆歴史館レポート
第33回企画展「江戸へ ―盛岡藩の参勤交代―」
- ◆歴史館レポート
奥羽再仕置430周年記念事業 激突! 秀吉の天下と奥羽の反発 「奥羽再仕置と南部領」
- ◆歴史館レポート
第3回もりおか歴史文化館自由研究コンクール
- ◆インフォメーション



「南部利敬入部行列図巻」より 明治7年(1874)写

11代盛岡藩主南部利敬が寛政7年(1795)に初めて盛岡に下向した際の行列を描いたとされる行列図。巻末に明治7年に制作された写しである旨が記されている。幼くして父を亡くした利敬は数え3歳で家督を継いだ。幼少者には参勤義務がなく江戸常府を命じられていた。そのため盛岡藩にとって利敬の入部行列は、10代利正最後の下向があった天明3年(1783)以来、実に11年ぶりの藩主下向行列となった。

さて、通常であれば藩主は乗物の中にいるが、本資料においては行列の構成や並び順が各種の行列帳に記された本行列とは異なり、乗物の前方に騎馬の男性が描かれている。他の騎馬と比較してもひととき豪華な馬具に施された南部家の常紋(双舞鶴)から判断するに、この男性が利敬である可能性が高い。





もりおか歴史文化館(「歴文館」)は、2022年7月1日に開館11周年を迎えました。これまで市民の皆様をはじめ、国内外の観光客や学習旅行で来盛した児童生徒の皆様など230万人を超える多くの方々に御来館いただき、今日の「歴文館」を育てていただきましたことに深く感謝申し上げます。

さて、コロナ禍が始まってから既に2年半が過ぎようとしておりますが、全国的にも未だに終息には至らず、引き続き感染症対策の徹底が求められております。この間、市民生活や社会経済活動に長く大きな影を落としていることは、誠に残念でなりません。

こうした中「歴文館」では、来館者の感染予防と利便性向上に資するため、多言語による音声ガイドシステムを導入するとともに、ウェブサイトやSNSを活用した情報発信に一層力を入れ、収蔵資料や企画イベントの紹介のほか、盛岡市や「歴文館」の旬な情報を積極的に皆様にお届けし、その魅力をお伝えしているところでございます。是非「歴文館」のホームページやフェイスブック、ツイッター等も御覧いただければと存じます。

また、「歴文館」では、2022年度におきましても南部家や盛岡藩に関わる企画展やテーマ展、講座のほか、大人や子供も楽しめるワークショップ、各種イベント等を積極的に開催してまいります。市民の皆様が安心して様々な活動ができるような、そして、インバウンドや国内観光客の皆様が大勢おいでいただけるような日が一日も早く戻ってくることを切に願うものでありますが、「歴文館」といたしましても、感染状況には十分配慮しながら、収蔵資料の保存管理、調査研究とその成果の公開展示など、博物館としての基本的な活動はもとより、魅力的なイベントの実施や盛岡市が進めている盛岡城跡歴史的建造物の復元に向けた取組の支援のほか、「歩いて楽しむまち盛岡」の観光・交流拠点など、「歴文館」に期待される多様な役割をしっかりと果たすことを通じて、まちの賑わいや活力の回復に貢献してまいりたいと存じております。

「歴文館」では、日頃から来館者の御協力のもと館内の感染防止対策を徹底し、安全な環境でお楽しみいただけるよう努めておりますので、多くの皆様に足をお運びいただければ幸いに存じます。心より皆様の御来館をお待ち申し上げております。

令和4年7月1日
もりおか歴史文化館 館長

柴田 道明

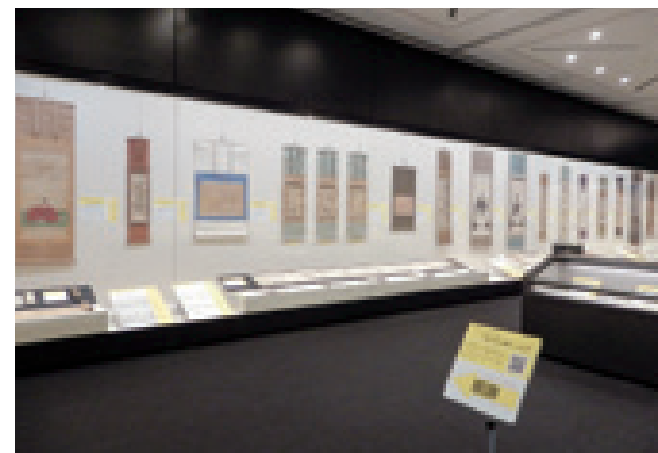
◆2021年度事業報告

第32回企画展「南部家のたしなみ ―詠む・描く・書く―」

【担当学芸員：小原祐子】

会期：2021年4月21日(水)～6月20日(日)

江戸時代の南部家の人々は日々様々な学問や芸事を学んでいました。様々な学問や芸事を見直すことで、江戸時代の南部家の学びについて、さらに現在の私たちの学びについて考えてもらう展示でした。南部家の人々が詠んだ和歌や漢詩、描いた絵画や記した書などから、作品が作られた背景や意図、込められた思いを読み解きました。大変難しいテーマでしたが、南部家の人々が理想の藩主を目指して学んでいる様子を知っていただくことができました。また、南部家の子供たちが練習のため書いた書や絵には多くの方に共感していただけました。



第33回企画展「江戸へ ―盛岡藩の参勤交代―」

【担当学芸員：福島茜】

会期：2021年7月31日(土)～10月31日(日)

江戸時代の法令や規則のなかで、おそらくもっとも有名なもののひとつに「参勤交代」があります。参勤交代はその字のとおり「交代で参って勤める」ことで、大名たちは交代で江戸に滞在して様々な勤めを果たし、約1年を江戸で過ごした後、再び自身の領地へと帰って行きました。本展では現存する資料から、なぜ大名たちは参勤交代をしなければならなかったのか、江戸幕府は何のために参勤交代を義務付けたのか、参勤交代はどのような手順を踏んで行われたのかといった基礎情報を探るとともに、盛岡藩の参勤交代の実態をご紹介します。

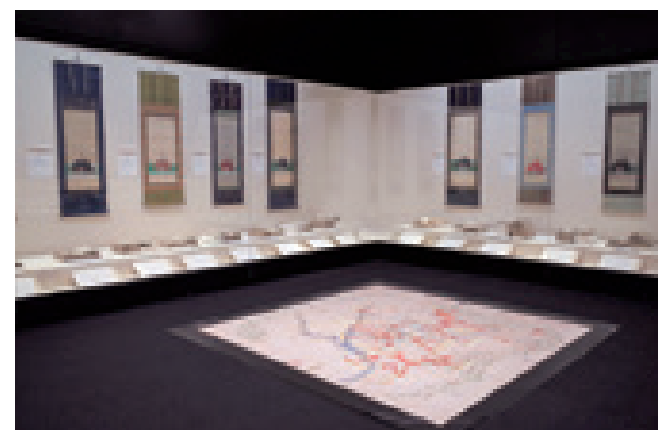


第34回企画展「『雑書』の世界―家老が書き残した盛岡藩―」

【担当学芸員：熊谷博史】

会期：2022年1月19日(水)～3月14日(月)

盛岡藩研究の基本的文献と言われる『盛岡藩家老席雑書』、通称『雑書』にのみ焦点をあてた、ある意味では地味な、ある意味では野心的な企画展。『雑書』の大きさや作成年代、書式などの基礎情報から、作成者である盛岡藩家老についてなど、『雑書』をさまざまな角度から紹介するとともに、内容については盛岡藩の政治・経済・文化など多岐にわたる、特徴的な事例をピックアップして紹介しました。この企画展に合わせて作成したミュージアムグッズ「雑書トートバック」も好評で、多くの方に手に取っていただくことができました。

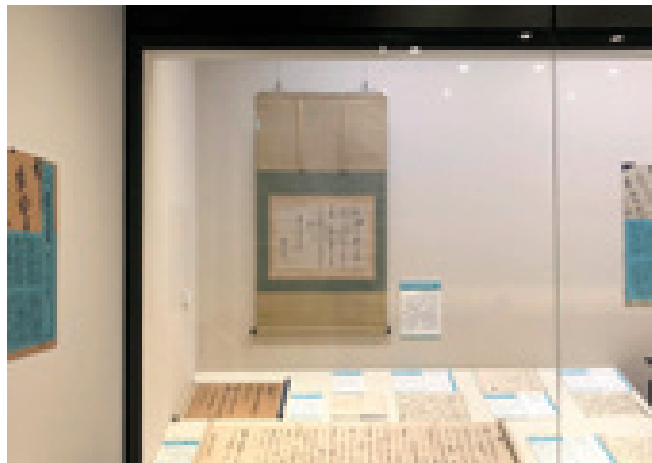


本企画展は、非常に有名でありながらその実態が正しく知られているとは言い難い「参勤交代」を、その成立過程や実際の参勤交代の実施の様子を物語る資料をもとに掘り下げていくものでした。同時に、全国的に行われたものであるがゆえに、地元盛岡でもあまり触れられて来なかった「盛岡藩の参勤交代」の実態を明らかにしようとしたものでもあります。



会場の様子

展示は4章構成とし、「1章 参勤交代前夜 ―武士たる者の務め―」では参勤交代が制度として確立する以前の武士たちの務めや戦のための軍行の様子を、「2章 今年は江戸へ、来年は国元へ ―参勤交代の制度化―」では、江戸幕府3代将軍 徳川家光から発せられた武家諸法度(寛永令)に於いて参勤交代が大名の義務として定められて以降の、実際に参勤を行うための手続きを紹介しました。盛岡藩主が行った参勤交代の実態を示す資料によって参勤の旅の規則、費用、宿場での恒例行事などを紹介した「3章 盛岡藩の参勤交代 ―旅のルールと実態―」を展示の中心とし、「終章 大名の江戸暮らし」では参勤交代の本来の目的である、江戸に到着した藩主がそこで果たした務めを物語る資料を展示しました。

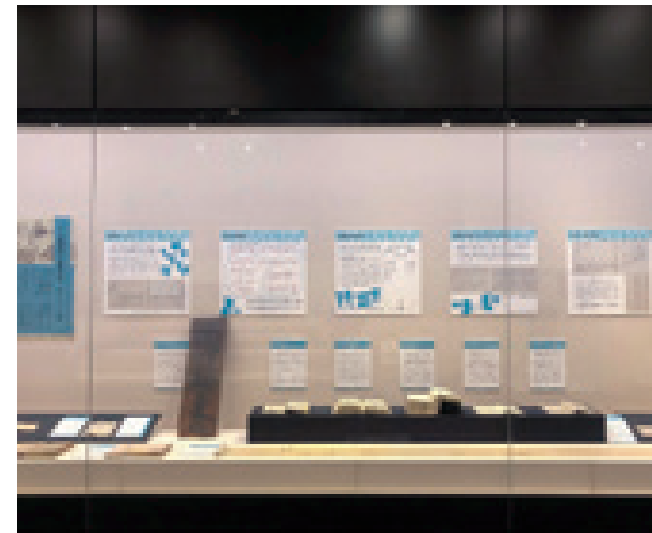


1章 参勤交代前夜
数少ない江戸時代以前の資料から、参勤交代が制度化される以前の名主たちの務めの有り様を紐解く



2章 今年は江戸へ、来年は国元へ
参勤交代に関わる江戸幕府と藩との間の事務的な手続きを紹介した

展示の中心とした3章では、実際に参勤交代で使用したと考えられている道中道具と共に、それらの道具が行列に加わることの意義を示す文字史料も紹介しました。単に道中道具を眺めて豪華絢爛な参勤行列に思いをはせるだけでなく、行列が持つ意味についても知っていただく機会になったのではないのでしょうか。またこの章では、市内の個人が所蔵する資料も借用・展示しました。盛岡藩主の参勤交代の中でも、仙台藩との境界付近に位置する鬼柳の「御仮屋」での出来事に特化して記されたものです。展覧会などに於いて公開されたのは本展が初めてで、本展をきっかけに貴重な史料の存在を紹介し、さらなる研究を進めるきっかけを提供することができたと考えています。



3章 盛岡藩の参勤交代
難解な文字史料の内容をパネルにまとめ、参勤交代の実態をわかりやすく伝えた



参勤交代の実施に関わる様々な記録を紹介し、盛岡藩の参勤交代の実態を探った



参勤交代道具の展示
道具の由緒を記した文字史料や行列図の写真と共に展示した



もともと2020年の夏季企画展として企画された本展でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により一度は中止され、そこから1年を経てなんとか開催に至ったのが2021年の夏でした。会期中には「岩手緊急事態宣言」の発令に伴う盛岡市からの要請により長期の臨時休館があったため、約3週間の会期延長も行いました。展覧会に合わせて企画したれきぶん講座「親子鷹参勤道中」も、感染の拡大が収まらず2度にわたる延期を余儀なくされました。このように様々な不慮の事態に遭遇した本展を含め、2020～2021年度にかけての一連の展覧会は、過去に経験したことのない苦しさのある展覧会でした。しかし同時に、コロナ禍以前とはまったく変わってしまった日々の暮らしの中にあっても、多くの方が博物館に、そして本展会場に足を運び、講座に出席してくださることに、過去の展覧会とは比べ物にならない大きな喜びを感じることもできました。この場をお借りして、展覧会開催にあたりご協力いただいた皆様、そして気兼ねな外出も難しい情勢の中でもわざわざご来場いただいた来館者の皆様に、心から御礼を申し上げます。

◆歴文館レポート
奥羽再仕置430周年記念事業 激突!秀吉の天下と奥羽の反発 「奥羽再仕置と南部領」

【学芸員:熊谷博史】



2021年度、北関東から東北地方の資料館や博物館施設が連携し、「激突!秀吉の天下と奥羽の反発」と題して、奥羽再仕置430周年記念事業が行われました。

一般的に「奥羽仕置」とは、天正18年(1590)、豊臣秀吉によって小田原の北条氏が滅ぼされた後、その戦後処理を前提とした東北(陸奥国・出羽国)各地の大名の再編成・領知の再分配のことを指します。これによって豊臣秀吉による天下統一が達成されたと言われますが、奥羽仕置によって領知を奪われ没落した大名や武士をはじめ、秀吉のやり方に納得せず不満を持つ人びとも多くいました。そのため仕置後も東北地方で一揆や反乱が頻発し、これを鎮圧するため、翌天正19年(1591)にかけてふたたび豊臣氏の大军が東北各地に派遣されました。秀吉の甥豊臣秀次と徳川家康を総大将とする豊臣軍には、関東や北陸の大名のほか、南部氏を含む東北の大名も加わりました。この豊臣軍によって東北各地の一揆や反乱が鎮圧され、最後まで抵抗した九戸政実が滅ぼされたことにより、秀吉の天下統一が完成したといえます。この後、改めて領知の再配分や検地など事後処理が行われますが、これら一連の流れを「奥羽再仕置」と呼び、これが実施された天正19年から430年という節目の年が2021年度ということになります。

この日本史上の大きな転換点ともなった奥羽再仕置の意義を再評価するため、関連する地域の資料館・博物館が、それぞれ自身の収蔵資料を中心に奥羽再仕置関連の展示を行い、一連の事業として連携しながら情報発信を行いました。高岡の森弘前藩歴史館・八戸市博物館・花巻市博物館・えさし郷土文化館・山形大学附属博物館・米沢市上杉博物館・石巻市博物館・仙台市博物館・福島県立博物館・大田原那須与一伝承館・栃木県立博物館・新潟県立歴史博物館など、錚々たる参加館に交じって、もりおか歴史文化館も「奥羽再仕置と南部領」と題して参加しました。展示資料は南部信直宛豊臣秀吉朱印状、豊臣秀吉禁制、南部信直宛浅野長吉書状、東直義宛浅野長吉書状、蒲生氏郷起請文、浅野長吉・堀尾吉晴・井伊直政・蒲生氏郷連署書下など、これまでも展示したことのあるものでしたが、奥羽再仕置430周年記念事業の一環として位置づけられたことで、より有意義な展示として多くの方に見ていただくことができました。

◆歴文館レポート 第3回もりおか歴史文化館自由研究コンクール

【事業推進グループ:太田梯子】

もりおか歴史文化館自由研究コンクール、通称「モリガク」は2018年から活動を開始した歴文館サポーターズふたば(現在休止中)の事業企画部に所属していた、市内の現役高校生の提案から始まりました。

江戸時代に盛岡藩の城下町として発展し、魅力的な歴史と文化が息づいているここ盛岡ですが、そのことを知っている、または知ろうとする大人が少ないのではないかとどうすれば幅広い世代に興味・関心を持ってもらえるか、盛岡に愛着をもってもらえるか考えた結果、小学校で夏休み・冬休みに課題としてだされる自由研究がそのきっかけになるのでは…ということで、企画は実行に移されました。

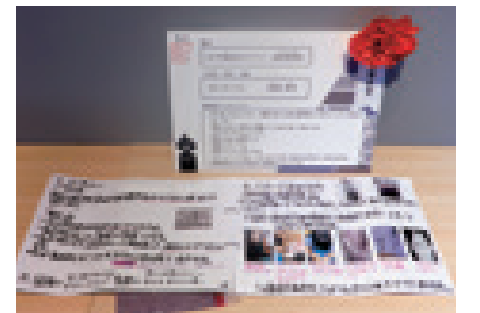
2018年度に第1回、2019年度に第2回モリガクを開催し、盛岡の歴史や文化に対する探求心、地元への愛着が感じられる数々の力作が集まりました。2020年度は残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止でしたが、2021年度は対策をとり、第3回モリガクの開催に漕ぎつけることができました。遅くなりましたが、ご応募いただいた15名の小学生の皆様ありがとうございます!ご応募いただいた皆様全員に賞を贈りたいほど、すばらしい研究・作品の数々でした。

2022年度の第4回モリガクも、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策をとり開催いたします。小学生の皆様のご応募をお待ちしております。盛岡の魅力を多くの人に知ってもらいましょう!

さて、今年の夏休み、皆さんはどんな予定をたてていますか。もりおか歴史文化館では、モリガクに先駆けて夏休みに「自由研究相談室」を開催いたします。微力ながら当館の学芸員が「自由研究相談室」でお助けいたします。力作は学校での展示の後に、ぜひモリガクへ!



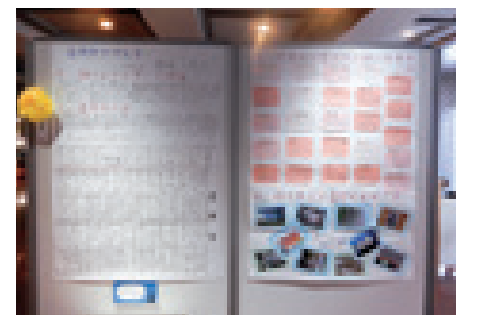
全体の情景



【最優秀賞】「いわての染めものマジック
—南部紫根染—」



【優秀賞】「もりおかだしはかせになるう!!」



【館長賞】「盛岡弁でがんす」

◆第4回もりおか歴史文化館 自由研究コンクール

応募期間:8月22日(月)~9月30日(金)

作品展:10月29日(土)~11月13日(日)

※詳細については、応募期間が近づきましたら当館公式ホームページなどで、情報を公開いたします。

◆自由研究相談室

小学生を対象に「盛岡の歴史・文化」をテーマにした自由研究についての相談を電話(019-681-2100)で対応します。

日時:8月6日(土)~8月14日(日)

各日10:30~12:00/13:00~15:00

※1回のお電話につき、30分が目安となります

〈2021年度受賞作品〉※学校名、学年は受賞時

【最優秀賞】「いわての染めものマジック —南部紫根染—」	飯岡小学校3年生	相浦美咲さん
【優秀賞】「もりおかだしはかせになるう!!」	永井小学校1年生	土田朝日さん
「盛岡の礎を築いた南部氏」	仙北小学校6年生	兼平 權さん
【館長賞】「盛岡弁でがんす」	北厨川小学校4年生	櫻田真尋さん
【花咲賞(審査員特別賞)】「あんどん」	岩手大学教育学部附属小学校2年生	高田祥希さん